

派遣を終えて

山元町では、1年目は震災復興企画課、2年目は被災者支援室に配属となりました。そこで従事したのは、新市街地の整備と住宅再建の支援です。津波被害にあった海沿いに住んでいる人に対し、新市街地に移転してもらうため、意向調査、説明会や移転に伴う費用の支援の手続きをしました。

その中で、震災がトラウマで住んでいた家に住めなくなった人、いないはずの人が見えるといった幻覚に悩まされる人など、さまざまな住民に出会いました。その状況で、家族の中でも移住についての意見が合わないことも多く、たとえ費用の援助など制度が決まっても、決められない人たちが多い現状に、はがゆい思いをしました。

復興は、そこに住む人だけではなく、周りの支援がないとできません。でも、まちを守っていくのはよその人ではなく、自分たちであると思います。なぜなら、どんなに対策をとっても、目の前に津波が迫



山元町と全国からの派遣の仲間たちと

ってきたとき、どのような行動をとるのは自分自身で判断しなければならないからです。派遣を通じ、1人1人が防災をはじめ、もっとまちのことを考えていかなければならないと感じました。

2年間で、山元町の人だけでなく、全国からの派遣職員など多くの人に出会うことができました。みんなに出会うことができ本当に良かったです。

森実祐規 宮城県山元町へ派遣

亘理町では、2年間を通して健康推進課に配属されました。班員は私を入れて11人、事務職は私だけで、他は保健師や栄養士というような状況でした。従事した仕事は、主に健診や予防接種などの事務で、震災復興に関するものというより通常事務の補助でした。その中で、亘理町の方は温和でマイペース、あまり自己主張はしないようできて芯が強い印象を受けました。また、助け合う精神が根付き、震災時も助け合って避難したという話をよく聞きました。

課内旅行は愛媛へ。松前と亘理の交流も深まりました



成田陽一 宮城県亘理町へ派遣

帰町してから「復興はどうか」と聞かれる機会が増えました。被災地や被災された人はどうだったか、松前町と比べてどうか。派遣職員の存在が、被災地を風化させないため役立っている証拠だと思います。

一方で「復興はどうか」という質問には、正直いつも返答に窮しています。震災後、津波に襲われたまちは現在からは想像がつかない状況で、言葉で表現することもはばかれるものでした。ある日突然に生活が奪われ、家族や家を失い、否応なく「被災者」となってしまった人たちにとっての「復興」とは何を指すのか。元通りの生活やまちに戻ることが「復興」なのか、漠然とした「復興」という定義は被災された人が抱える課題の数だけあると思います。

全ての被災された人の「復興」のためには、まだ多くの人が必要です。被災自治体の職員だけでなく、全国からの派遣職員、その職員を送り出す自治体の職員など、今後も多くの人に関わる必要があります。

今回の派遣では、本当に多くの人に支えられました。温かく受け入れてくれた亘理町の職員の皆さんだけでなく、快く送り出してくれた松前町の上司、仲間や後輩への感謝の気持ちを忘れず、月並みですが松前町で与えられた職務を全うしたいと考えています。

松前の防災力

危機管理係 ☎ 985-4103

宮城県亘理町・山元町

東日本大震災被災地派遣報告

平成25年度から26年度までの2年間、東日本大震災被災地の復興支援のため、町は宮城県亘理、山元の両町へ職員を派遣しました。

山元町

宮城県の最東南端に位置し、東は太平洋、西は阿武隈山地の北端をなす丘陵地帯が南北に連互しており、東北地方の中でも比較的温暖な町。

いちご、りんごやほっきが特産。

亘理町

東に太平洋、西に阿武隈山地、北に阿武隈川が流れ、豊かな自然があり、東北地方の中でも比較的温暖な町。

特産は、いちごやりんご。鮭の煮汁を合わせたごはんの上に、切り身とほらこ(いくら)をのせた「はらこめし」という郷土料理も有名。



特産

memo



「はらこめし」とりんごをはじめとする特産品。25、26年のたわわ祭

では、亘理、山元両町の職員の皆さんが来町し試食販売してくれ、大変好評でした。

気候

memo



比較的温暖と言っても、そこは東北。愛媛では味わったことのない突き刺さるような寒さや雪かきの経験は、新鮮でもあり苦労も感じました(写真は山元町役場駐車場)。

東日本大震災での被害状況

太平洋に面する両町。10mを超える津波が襲い、多くの被害をもたらしました。

- ▶ 亘理町 震度6弱
被害 死者306人、住宅被害6,221棟
津波 町面積の約48%の約35km²が津波により浸水
その他 被害総額は3,352億円で、町年間発生量の100年分に相当する瓦礫量127万トンが発生した
- ▶ 山元町 震度6強
被害 死者636人、4,440棟全半壊・一部損壊
津波 町面積の約37%の約24km²が津波により浸水
その他 全世帯及び全人口の45%が避難生活を送り、防潮堤(農地海岸6.2m、建設海岸7.2m)は仙台湾で最大の被害であった



④海から500mに満たない場所にあった中浜小学校(山元町)。10m超の津波が2階建ての建物の天井にまで到達。学校周辺の建物は跡形もなく流されたが、屋根裏に逃げ込んだ児童たちは全員無事だった ⑤津波は車も簡単に破壊。被害の大きさを物語る

